

令和6年度

「運営に関する計画」

大阪市立粉浜小学校

令和6年度 最終

1 学校運営の中期目標

現状と課題

【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】 C

【最重要目標 2 未来を切り開く学力・体力の向上】 C

【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】 B という結果になった。

【安全・安心な教育の推進】 C

全市共通目標の「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童が 75.1% (昨年度 83.2%) で 2 年連続目標を達成できなかった。

不登校児童の在籍比率が 4.5% から 5.2% になり、前年度より減少しなかった。前年度の不登校児童の改善比率が 10% から 15% になった。新たな不登校児童が出たが、6 年生で学校へ登校できるようになった児童が 2 名おり、改善傾向も見られた。

また、「自分に良いところがある」の項目で肯定的に回答する児童が 89% おり、不登校予防につなげることができると考える。

不登校児童、保護者への粘り強い働きかけと、関係諸機関との連携が功を奏していると考える。さらに、体験的な活動を多く取り入れたり、次の日の予定を確認しておいたりする等の手立てもさらに取り入れていってはどうかと考える。

【未来を切り開く学力・体力の向上】 C

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」に最も肯定的に回答する児童は 34.8% で目標の 38% に到達しなかった。

小学校学力経年調査の対全国比を同一母集団において経年的に比較した際、前年度を上回ることはできなかった。正答率でみると、5 年生が国語と算数で 3 年連続で大阪市平均を上回っている。4 年生が算数で 2 年連続大阪市平均を上回った。

英語の学習は「好き」と肯定的に回答する児童は 77.8% で目標の 83% に届かなかった。

理科と運動は目標を達成した。

話し合う活動は、思考ツールや I C T を活用し思考の見える化をしていく必要がある。

総合的な学習の時間で探求のサイクルを回す中で、「資料の収集」 ⇒ 「整理・分析」をすることで「話し合う」ことを意識させられるのではないかと考える。

【学びを支える教育環境の充実】 B

I C T の活用について、教員は自分の能力を肯定的にとらえている。I C T 活用の研修により、確実に能力が高まっている。

ゆとりの日は平均して週 1 回という目標は達成できなかったが、時間外勤務時間を減らすことに成功した。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 %以上にする。
- 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
- 小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 87 %以上にする。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67 %以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の 8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 %以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等 I C T 活用を適さない日数を除く]
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教員の割合を 70 %以上にする。

基準 1 時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0、かつ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下

基準 2 1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0、直近 2 ～ 6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0、を全て満たす。

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

○小学校経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。

(R5: 3年69.3% 4年100% 5年88.9% 6年98.6%)

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

(R5: 5.2%)

○小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。

(R5: 75.1%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

(R5対全国比: 3年0.87 4年0.95 5年1.02)

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。

(R5対全国比: 3年0.98 4年1.03 5年1.04)

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67%以上にする。

(R5: 3年72.6% 4年70.8% 5年67.2% 6年62.6%)

【学びを支える教育環境の充実】

○授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用を適さない日数を除く]

○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を69%以上にする。(R5: 68%)

基準1 時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2~6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

3 本年度の自己評価結果の総括

【安全・安心な教育の推進】

○小学校経年調査における「学校の決まりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする目標に対して90.6%を達成した。

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させるという目標は昨年度5.21%から本年度5.17%となり達成した。

○小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にするという目標に対して80.3%で目標を達成した。昨年度は75.1%だった。

3つの最重要目標に対してすべて、目標どおりに達成している。3つの取組内容もすべて目標を達成した。しかし、アンケートの数値ではなく実際の子どもにおいて廊下を走る場面が見受けられることや、不登校・いじめ対策は継続して対応していく必要があることから達成状況はAではなくBとした。

【未来を切り開く学力・体力の向上】

○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させるという目標は4年と6年で向上させることができた。

平均正答率対全国比	R 5	R 6	±
4年	0.87	0.94	+0.07
5年	0.95	0.95	±0
6年	1.02	1.05	+0.03

○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させるという目標は6年で向上させることができた。

平均正答率対全国比	R 5	R 6	±
4年	0.98	0.96	-0.02
5年	1.03	0.90	-0.13
6年	1.04	1.09	+0.05

○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を67%以上にするという目標に対して3~6年平均で72.7%で目標を達成した。

(R 6: 3年72.3% 4年73.3% 5年85.1% 6年60.0%)

3つの最重要目標で「運動が好き」は目標を達成できたが、国語と算数の学力は「いずれの学年も」という部分で目標を達成させることができなかった。よってCという評価にした。

取組内容①は、研究教科の生活科・総合的な学習の時間で思考ツールを使い話し合う場面が増えるとともに、他の教科においてもペアやグループでの話し合い活動が多く見られた。読書については目標を達成した。家庭学習も計画的に進めた。

【学びを支える教育環境の充実】

- 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用を適さない日数を除く〕という目標に対して、目標を達成した。
- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合を69%以上にするという目標を達成した。
取組内容①については、視聴覚主任より「心の天気」の入力を学級担任だけでなく、児童朝会で子どもに直接入力を促すなどした結果、達成につなげることができた。
- 取組内容②は会議等を精査し「ゆとりの日」を平均して週一回以上設けることができた。
最重要目標、取組内容ともに目標を達成し評価をAとした。

(様式 2)

大阪市立粉浜小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85 %以上にする。 90.6%</p> <p>○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 5.21%→5.17%</p> <p>○小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 80 %以上にする。 80.3%</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が学校のきまりや規則を守ろうとする意識を高める。 <p style="text-align: right;">(安全教育の推進)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校のルールを守ろう週間」を年 2 回設定し、「チェックカード」において守れなかった日数が 1 日以下の児童の割合が全児童の 88 %以上になるようにする。 <p style="text-align: center;">①92.9% ②91.2%</p>	B
<p>取組内容②【1 安全・安心な教育の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任を中心に定期的に話し合いの場を設け、不登校の未然防止の視点で児童理解に努める。 ・児童の実態を把握し、思いやりの心や自己肯定感が育つ取り組みを進める。 <p style="text-align: right;">(不登校への対応)</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートの「自分によいところがある」の項目で、肯定的に回答する児童の割合を 88 %以上にする。 88% 	
<p>取組内容③【1 安全・安心な教育の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童が「いじめはどんな理由があってもいけない」と思う意識を高める。 <p style="text-align: right;">(いじめへの対応)</p>	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめについて考える日を年 3 回設定し、児童がいじめについて考える機会を設ける。 	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

○小学校学力経年調査における「学校のきまりを守っていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合が85%以上になった。

<3~6年>

○年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率が前年度より減少した。

○小学校学力経年調査における「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合が80%以上になった。

<3~6年>

【取組の進捗状況の結果】

○「学校のルールを守ろう週間」を年2回設定し、「チェックカード」において守れなかつた日数が1日以下の児童の割合が全児童の88%以上になった。

○児童アンケートの「自分によいところがある」の項目で、肯定的に回答する児童の割合が88%以上になった。

○いじめについて考える日を年3回設定し、児童がいじめについて考える機会を設けた。

【分析】

(取り組み内容①に関して)

不登校児童・その保護者への粘り強い働きかけの結果、不登校児童の在籍率が下がったが、特に高学年での不登校児童を減少させることが課題として残る。

学習中や学校行事等で自己肯定感を高めるよう指導を続けている成果が表れている。

(取り組み内容②に関して)

「きまりを守ろう週間」等を設定することにより、規範意識は高まっているが、その時だけになってしまっている傾向がある。継続した指導が必要。

(取り組み内容③に関して)

「いじめについて考える日」を3回設定することで児童も教師も意識する機会を定期的に設けることができた。

次年度への改善点

きまりを守ろうの項目で達成はできたが、廊下を走るなどの場面が見受けられる。児童が学校のきまりを守るために、全教職員で見逃さず徹底した指導が必要。教職員の意識を高めるための取り組みも検討していく必要がある。

学校のきまりの変更点を児童や保護者に丁寧に説明することが求められる。

不登校児童、保護者に対しては引き続き丁寧に対応していく。

大阪市立粉浜小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>○小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を 67 % 以上にする。</p>	C

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語科や算数科の授業を中心に、児童が自分の考えをもち、話し合いに参加し、考えを深められるような学習を進めていく。 ・「思考力・判断力・表現力」を育成するための教材や学習プリントを活用し、家庭学習の充実を図る。 ・言語環境を整えるために、学校図書館の整備、読書活動の充実を図る。 (言語活動・理数教育の充実) <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケート「学級の友だちとの話し合い活動を通じて、自分の考えをふかめたり、広げたりすることができた」に肯定的に回答する児童の割合を 82 % 以上にする。 ・1 週間に 3 回ずつ以上、児童が「読み」「書き」「計算」に関する家庭学習をする機会を設ける。 ・年間 30 冊以上読書する児童の割合を 62 % 以上にする 	B
<p>取組内容②【5 健やかな体の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育の学習で自分が運動する楽しさや仲間と協力して運動する楽しさを感じられるようにする。 ・なわとびがんばり週間や耐寒かけ足大会に向けたかけ足期間を設け、進んで体を動かす楽しさを味わわせる。 (体力・運動能力向上のための取組の推進) <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童アンケートにおける「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合を 70 % 以上にする。 ・「なわとびがんばりカード」を活用し、なわとびがんばり期間の児童参加率を 90 % 以上にする。 ・「かけ足がんばりカード」を活用し、自分がきめためあてを達成した児童の割合を 85 % 以上にする。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標の達成状況】

○小学校学力経年調査における国語の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上しなかった。

<4~6年>

○小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上しなかった。

<4~6年>

○小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合が67%以上になった。

→85.1%

<3~6年>

【取組の進捗状況の結果】

○児童アンケート「学級の友だちとの話し合い活動を通じて、自分の考えをふかめたり、広げたりすることができた」に肯定的に回答する児童の割合が82%以上になった。→90%

○1週間に3回ずつ以上、児童が「読み」「書き」「計算」に関する家庭学習をする機会を設けた。

○年間30冊以上読書する児童の割合が62%以上になった。→66%

○児童アンケートにおける「運動することが好き」の項目について「当てはまる」と答える児童の割合が70%以上になった。→72%

○「なわとびがんばりカード」を活用し、なわとびがんばり期間の児童参加率が90%以上になった。→94.6%

○「かけ足がんばりカード」を活用し、自分がきめためあてを達成した児童の割合が85%以上になった。→90.6%

【分析】

(取り組み内容①に関して)

国語科や生活科・総合的な学習の時間をはじめとした各教科で、ペアやグループでの話し合い活動を行った。その際に、話し合いの視点を学級全体で確認したり、自分の考えを書く時間を十分に確保したりすることで、活発に話し合い活動を行うことができた。主体的に活動を行うことに楽しさを感じる児童も多かった。

どの学年でも「読み」「書き」「計算」に関する家庭学習を計画的に行い、学力の向上に努めることができた。また、各学級週に1回図書の時間を設けたことに加え、お話し・教員のおすすめ本の紹介、調べ学習、並行読書などを通して、本に触れ合う機会を多く設けることができた。

(取り組み内容②に関して)

なわとびがんばり週間、かけ足週間ともに「がんばりカード」を活用することで、児童が目標を意識し、それに向けて努力することができた。また、カードを進めていく中で、児童自身が自分の頑張りや成長を感じることができた。

他にも、体育科の授業や休み時間のみんな遊びなどを通して、体を動かすことの楽しさを感じることができた。

次年度への改善点

指標の目標は達成できているが、年度目標にしている小学校学力経年調査の国語・算数の結果は目標に到達することができなかった。のびっこタイムや家庭学習を活用し、基礎の定着や苦手とする単元の復習に取り組んでいくようとする。

話し合い活動では、自分や友だちの考えを聞くことはできているが、児童自身が話し合いによって考えが広がったり深まったりすることのよさに気付けていない面がある。そのため次年度は、児童自身がお互いのさまざまな考えに触れ、「友だちと話し合いができてよかった」と思えるような授業をつくっていくことが必要である。読書に関しても引き続き取り組みを継続し、児童が本に親しめる環境をつくっていく。

運動することに関しては、今回全て指標を達成することができた。体育科の授業でスマールステップを意識して学習を進めたり、がんばり週間を活用して児童が目標をもって運動に取り組めるようにしたりするなど、児童が「運動が楽しい」と思える環境をつくっていくようとする。

(様式 2)

大阪市立粉浜小学校 令和 6 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
	C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上にする。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）</p> <p>○「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準 1 を満たす教員の割合を 69 % 以上にする。（R5 : 68 %）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 基準 1 時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 0 、かつ 1 年間の時間外勤務時間が 360 時間以下 基準 2 1 年間の時間外勤務時間が 720 時間以下、時間外勤務時間が 45 時間を超える月数 6 以下、時間外勤務時間が 100 時間を超える月数 0 、直近 2 ~ 6 か月の時間外勤務時間の平均が 80 時間を超える月数 0 、を全て満たす。 </div>	A

進捗状況	指標
取組内容①【6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 ・スクールライフノート、ナビマ、スカイメニュークラウド、インターネット検索を使う。 （ICTを活用した教育の推進）	A
取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・時間外勤務を減らすため、会議等を精査する。 （働き方改革の推進）	A
指標 ・平均して週に 1 回ゆとりの日を設ける。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標の達成状況】	
<p>○授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の 50 % 以上に なった。（ただし、事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日数を除く）</p>	

- 「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教員の割合が69%以上になった。

基準1 時間外勤務時間が45時間を超える月数0、かつ1年間の時間外勤務時間が360時間以下

基準2 1年間の時間外勤務時間が720時間以下、時間外勤務時間が45時間を超える月数6以下、時間外勤務時間が100時間を超える月数0、直近2~6か月の時間外勤務時間の平均が80時間を超える月数0、を全て満たす。

【取組の進捗状況の結果】

- 週に3回以上は一人一台端末を使用した。
○平均して週に1回ゆとりの日を設けた。

【分析】

(取り組み内容①に関して)

- ・中間評価の時点では児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上に達しなかったが、その後積極的に活用し50%を超えた。週3回以上学習者用端末の使用も達成できている。

(取り組み内容②に関して)

- ・会議のない日などできる限り「ゆとりの日」を設け教職員の働き方改革に努めた結果、目標を達成することができた。

次年度への改善点

- ・本年度の取り組みを継続していく。
- ・学習者端末の使用について、スカイメニュー、スクールライフノートの使い方について研究していく。また長期休暇期間、学校休業期間についての家庭への持ち帰りについて今後、検討していく必要がある。学習者用端末の使用にあたっては、効果や効率を考えるようにする。
- ・時間外勤務については、会議の内容の精査、会議の進め方の効率化、ゆとりの日の設定をすることで、ある程度成果が出ているが、あくまでも数字として達成している部分が大きいように思われる。業務内容の精査、業務内容の分担の見直しなど、改善できることは他にもないか検討する必要がある。